

平成21年度第1回秋田市廃棄物減量等推進審議会議事録

平成21年11月30日（月）

午後2時～午後4時

秋田市議場棟 正庁

I 次 第

1. 開 会
2. 市長挨拶
3. 会長挨拶
4. 事務局新任職員の紹介
5. 議 事
 諮 問「家庭系ごみの有料化について」
6. その他
7. 閉 会

- II 出席委員 柴山委員、石郷岡委員、上杉委員、岡部委員、照井委員、藤井委員、北村委員、
近藤委員、新田委員、平川委員、三浦委員
- 欠席委員 4名
- 事 務 局 中川環境部長、田口環境部次長、古里副理事兼環境総務課長、相場ごみ減量
推進課長、他7名

III 議 事

会長

(議事に入る)

次第5の諮問「家庭系ごみの有料化について」を案件とするので、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

ごみの有料化は、市民に負担をかけることになる大きな問題だととらえており、そのため審議も慎重に進めて行きたい。諮問については、有料化導入の是非を含めて、これから審議していただくもので、初めから有料化ありきということではないことをご了承願いたい。

また、有料化の審議については、市議会厚生委員会にも内容等を含め報告を行いながら進めたいと考えているので、よろしく願いたい。

本日第1回目の審議会は、有料化の議論の導入部分として、これまでの経緯を含め、本市ごみ処理の現状と課題、なぜ今減量化が必要なのか、他都市ではどのような方法で有料化を進めているのか、有料化とはどのような方法なのかなど、基礎的な知識や有料化の目的等をお話する予定である。

(以下、資料について説明)

会長

委員の皆さんから順番に質問や意見をお願いしたい。

委員

家庭ごみの発生量は、確かに目標値に比べ、期待したほどの減量が進んでいないと思うが、7万数千トンが7万トンくらいまで下がってきて10%近い減量

効果が出ており、この辺を市ではどのように分析しているのか確認したい。

次に、紙類が20%くらいあるという話があったが、紙の捨て方を考えると、かなりごみのボリュームも変わるのではないかと思う。古紙を含めたごみの出し方を考えない限りは恒久的な対策にはならないと思う。

また、数値目標の達成ばかり意識し過ぎていると、当座はできるが、例えば、10年後にまたそこで数字が停滞しているということも起きかねないので、対策が必要ではないかと思う。

ごみの有料化は、導入直後には減ると思うが、それが恒久的な減少につながるのかは疑問である。導入後に減っても、5年後にほとんど同じになっているのであれば、導入するにしても導入の仕方を考える必要があると思う。この点についてはこの審議会において議論していきたいと考えている。

会長

それでは、事務局からお願いしたい。

事務局

最初に、15年度の家庭ごみが、20年度には一割も落ちているというお話であったが、確かにごみは減っている。

資料2の5ページ目では、1人1日あたりのごみ排出量を比較しており、15年度がピークになっていて、20年度で608グラムとなり、順調に下がっているように見えるが、目標値は比較的排出量の低かった11年度を基準としているため、そこに到達するのが結構大変であるということをお話した。

次に紙の出し方について、これまでは見られて困る紙（機密紙）もかなりあり、そのまま捨てられることが多かったのが現実である。その後、本市では、いわゆる雑がみも資源化しようということで、雑がみの集め方と出し方を井戸端会議などでお知らせし、お願いしてきている。

しかし、理解を示す人は、もともと環境意識の高い方々で、関心の低い方々には、何らかの動機付けが必要ではないかということが、ごみ有料化の発端になっているもの考える。

続いて、有料化後、ごみの量が増えるのではないかと言うことであるが、これはリバウンドという言葉で表現されている。有料化の研究をしている有識者の方々も調査を行っており、ごみ有料化の料金設定を安くしてしまうと負担にならずに最初だけ減り、また元に戻ってしまう傾向があるようで、市民にある程度の負担感がある方が恒久的に影響が続くという結果が出ている。

会長

それでは、次の方お願いしたい。

委員

私も、この家庭ごみをなんとかしなければならぬと考え、井戸端会議などで勉強している。また、たまにごみ置き場に行ってみるが、やはり分別が悪く、この資料を見るとまだまだ実行が足りないなと痛感した。

会長

それでは次の方お願いしたい。

委員

今回の家庭系ごみの有料化についてという話は、家庭ごみを減らすための動機付けの一つという考え方なのか、あるいは秋田市のごみ処理経費の負担を軽減させるという意味なのか、そこを区別して考える必要があると思う。

まずごみを減らしましょうという意識啓蒙という意味であれば、やはりまだまだ他にもいろいろな働きかけがあるのではないかと思う。

私は、事業者代表で出席しているが、例えば、会社で温暖化対策を訴えるときには、具体的に1人1日1キログラムCO₂を削減しましょう、何時間電気を消せば何グラム削減できますよ、積み上げましょうといった方法で行っている。

家庭ごみの減量についても、例えば1人1日50グラム削減しましょうという訴えをもっともっと出していけば、意外と50グラムというのは簡単にできるのではないかと思う。濡れたごみを乾かすとか、しっかり水切りするだけでもかなり変わると思う。ごみに対する市民の意識へ訴えかけたいというのであれば、もう少し手段があると思う。

また、意識調査を1,000人に出したところ、9割以上の方が関心があるということであるが、回答率が少し低いような気がするし、そもそも回答される方は意識が高いのではないかと思うので、そのまま見るのはどうかと思う。

事務局

有料化の目的としては、まずごみを減らしましょうということが確かにあり、内容としては、低炭素社会の構築や地球温暖化の防止という話も入る。新政权でも温暖化ガスの25%削減が示され、待ったなしの状況である。

ごみは減っている状況にあるが、さらに減らすためにはこれまで通りの方法では追いつかないと思われるので、何かしらの動機付けが必要ではないかということが諮問の理由である。

次に、ごみ処理にかかる経費負担が大きいということであるが、これは、我々が工夫し努力して削減していくべきことであり、安易に市民に転嫁することではない。有料化の収入の一部をごみ処理費用に振り分けるという考えもあるが、全額を充てるということではないということをご理解願いたい。

ごみ減量の意識啓発としては、以前、環境部で実施していたシェイプアップワンエムワン、一人100グラム運動、ぎゅっとひと絞り100グラムなど、市民にかけ声をかけて運動してきたが、あまり効果はでていない。より一層ごみを減量するため、新しい方法が必要とされていることから今回の諮問に至っている。

次に意識調査についてだが、1,000人の調査で回答440人は、確かに半分以下である。なかなか回答が返ってこないのが実状だが、このアンケートは、無作為抽出で行われていることから、ある程度の信憑性があるものと考えている。

委員

秋田市の世帯数と1世帯あたりの平均の人数はどれくらいか。

事務局

世帯数は、平成21年3月末で13万7,034世帯で、1世帯あたりの平均人数は、2人台になっていると思う。

委員

ごみの減量については、私自身、生ごみの堆肥化を約7、8ヶ月間実践した結果、約6割の生ごみが減った。堆肥は、近くの農家や農家の畑を借りながら作物を作っている方たちにお分けしてきた。

ごみの有料化をやる、やらないの前に、どのようにしてごみを減らすかということと、出たごみをどのようにして処理をするかということが重要だと思う。

仮に有料だとすると誰も、はい、良いですよという話には決してならないので、もう少しごみの減らし方の工夫が必要なのではないかと私は思う。

また、ごみ処理に年間約48億から49億くらいのお金がかかっているが、仮にごみが有料化になった場合、全てこの費用はまかなえるのかというと、そういうわけではないと思う。有料化に伴う収入については、どのような対応を考えているのか、シミュレーションという形で結構なので、お話をうかがいたい。

事務局

生ごみは、全部が全部堆肥になるわけではなく、貝殻など処理できないものもある。また、堆肥の処理も結構大変であり、他都市の事例では、農家と連携している例もあるが、当市としてはこれからの研究課題と考えている。

次に、有料化に伴う収入の使い道については、まずは、処理費用の一部に充当することが考えられる。それ以外は、例えば、循環型社会や低炭素社会の構築に向けた環境施策などの補助のような形も考えられるが、これはまだ仮定の話であり、その使い途については、今後の議論になるものとする。

会長

それでは次の方をお願いしたい。

委員

私の職場からは、様々なごみが出されるが、まだまだ個人により意識が異なり、紙を捨てるのにも、一般ごみに捨てる人や、産業廃棄物に捨てる人など様々な人がいる。ごみ分別推進係のようなものを設けて、企業の中でさらに徹底してもらおうというようなことは行っているのか。

シュレッダーにかけてしまうと資源にならず、燃料になるだけだということを知っている人が少ない。仕事柄、個人情報がついているものが多いが、しっかり分別して指導してくれる人がいる一方、簡単にシュレッダーにかける人はそのようなことは全く認識していない。

また、家庭では生ごみをどのように捨てるかということが問題である。ごみを少なくする方法などについて、ごみ減量推進課からの提案や、今やっている人からの提案など、もう少しこまめに市民に提示して、浸透できるような方法を考えていただきたい。

私は他県に実家があるが、そこでは、町内会館のところに細かに分類されている資源ごみの捨て場があり、いつでも捨てに行けるようになっている。秋田市でも同様になれば、今も問題になっているが、スーパーやコンビニのごみ箱に入れる人がいなくなることも考えられるので、スーパーの店頭などにも分別

の箱を置かせてもらいたいと思う。実際に置いてあるスーパーもあり、結構利用者がいるのを見て、良い方法だと思っている。

事務局

企業の方にもごみの分別等徹底してもらいたいという話であるが、現在、事業系ごみの減量活動として、一般事業所の訪問指導を行っており、商店会や事業所の連合会などを通じて、ごみの分け方・出し方のチラシや一般廃棄物と産業廃棄物の違いの資料などを配付し説明するようにしている。

大きい事業所ではISOの関係で、エネルギーや廃棄物の排出を抑えようという動きがあり、自主的に取り組んでいるところもあるが、小さい事業所については、今後指導していきたい。

紙のシュレッダーごみについては、感熱紙など再生できないものもいっしょにシュレッダーされてしまうと、結局はごみになってしまう。その分け方をうまく事業所でやっていただければ資源化できる。機密書類の再資源化もできるので、相談していただきたい。

また、昨年度ごみ減量アイデアコンテストというのを行い、その中でも生ごみの水切りの方法、生ごみを出さない料理の仕方などアイデアがいくつか出され、その内容を広報したが、広報を見ない人もいるようなので、広く市民に伝える方法を検討する必要があると思う。

次に、ごみの分別区分については、細かすぎるとなかなか対応できない人もいると考え、秋田市では現在の区分となっている。現在、一部のスーパー、ホームセンターなどで、発泡トレイや自社のレジ袋の回収などを行っており、そのような事業所をさらに増やすよう、お願いしていくことも必要であると考えている。

分別の区分については、これから考えていく必要があり、5年、10年単位で考えていかないと難しいと思う。今後の審議会の中でお話し合いをしていくことも必要であると考えている。

会長

それでは次の方お願いしたい。

委員

基本的に有料化は賛成である。

恐らく有料化になると、河川敷などに不法投棄があると思うが、その対策について考えているのかがいたい。

また、資源回収をやり、空き缶10個を5円で業者に買ってもらったところ、誰も捨てずに、全部資源回収に持ってきてくれた。とても評判が良くて、缶のごみの日にゼロになった。素晴らしい効果があったので、何かそういうメリットが出るような対応を考えていただきたい。

事務局

最初に不法投棄の問題であるが、やはりこれは有料化に必ずついてくる問題のようである。有料袋ではない袋でどこにでも捨てる不適正排出が増えることが懸念されるので、監視や指導をこれまで以上に強くする必要があると考えて

いる。これはモラルの問題であるが、有料化の検討と当然セットとして考える必要があると思う。

次に、空き缶の問題については、確かに有価物として、集まったアルミ、鉄などはスクラップとしてかなりのお金になり、資源回収で集めていただければ捨てる物も少なくなるので、皆さんでやっていただくことは良いと思う。

お話の件は、資源回収業者さんと取り組まれているのか。

委員

ジェイマルエーです。

事務局

これも店頭回収と同じようなことだと思うが、何個か入ると5円が返ってくるような制度を活用すれば、ごみの量も減らせる。資源化物を有料化するかどうかという話は、また別の話になりますが、個人的なメリットを示すことはかなり難しい。有料化について検討するにあたっては、恒久的にごみを減らすことが、地球環境にとっては良いことであり、自分たちが出したごみを処理するために、自分たちがお金を払っているということを考えてもらいたい。

会長

それでは次の方お願いしたい。

委員

ごみ排出量については、秋田市全体の統計になっているが、地域別の傾向というのは出ているのか。もし、出ているとすれば、同じ秋田市の中でも問題のある地域を優先的に徹底すると効果があるのではないかと思う。

次に、ごみ減量の意識調査について、先ほど44%が少ないというお話があったが、やはり年代別で結構違いが出てきているのではないかと思う。ごみ減量分別井戸端会議の中で、小中学校に職員の方が見えられて啓発活動をされているようだが、将来的には、例えば高校とか大学とか、二十歳前後の方々への啓発活動も重要だと思う。

私の会社の隣がアパートだが、駐車場にごみが散乱しているのを何回か目にしていることもあり、実際どうかしなければならぬのは、二十歳前後の年代なのではないかと思ったので、年代別はどうなのかうかがいたい。

最後にごみの出し方のマナーについてだが、捨てる場所の整備ということも必要ではないかと思う。私が住んでいるところは比較的新しい住宅地だが、少し前まではネットを張っている状態だったが、現在は鉄のゲージ状のものに変わっている。

その場所は回収する時間が昼を過ぎたりするため、カラスなどがくることを配慮して変えられたのかなと思うが、もし有料化を推進されるとすれば、場所の環境も整備された方が良いのではないかと思う。

事務局

まず最初にごみ出しについて、各地域別の傾向はどうかという話だが、収集車は地区毎に収集しているわけではなく、かなり広い範囲を収集していることもあり、地域別のごみ量は把握していない。しかし、ごみ減量推進課で行って

いるごみの組成調査では、市内の各地域別でごみの分け方の傾向は把握しているので、それらのデータを活用していきたいと思う。

次に、ごみ減量の意識の件については、来年度に意識調査を行う予定であり、各年代毎の意識をとらえるような形で実施したいと考えている。

また、高校や大学に対する啓蒙活動はどうかという話であるが、なかなか啓蒙活動のできる機会がない。大学では毎年新入生が入ってくるので、そのときに大学生協等を通してアパートを借りる方々に、秋田市のごみの分け方・出し方を教えていただくようにしている。

また、環境部では、より良い環境をつくっていかうということで、あきた環境楽会という会を通して、ごみの分別のみならず、環境に対する考え方などをお話ししている。大学生もこの中に入っているので、このような機会を捉えて入っていくことはできると思う。

有料化するとしたら、集積所の整備も必要ではないかという話だが、基本的には集積所は、町内会やアパート関係者などに維持管理してもらうという制度になっており、整備に関して市がお金を出していることはない。しかし、有料化するとしたら、そういうことも検討課題の一つとして考えていきたいと思う。

会長

それでは次の方をお願いしたい。

委員

ごみの有料化は、私は基本的には賛成である。もし有料化になると、自分もいろいろなことを意識してごみの減量に努めていくのではないかなと思う。

ただこの会に出席して、初めて意識したことがある。ごみの指定袋を買うことによって、私は既に有料化になっていると誤解していた。市では指定だけして、その収入は市に何も入らずに業者だけであったということを私は大変不思議に思った。

私と同様に、すでに有料化になっていると誤解されている人がいれば、さらに今回の有料分もプラスされると誤解してしまう人もたくさんいるのではないかな。

事務局

指定ごみ袋には、ごみを集めるときに秋田市のごみだとわかることと、出すときまでに破れない強さを持っていることが要求される。そのため、秋田市では規格に合った指定袋を使用してもらっている。

今売られているごみ袋は、メーカーで作っている原材料の価格や流通経費、店の利益などの経費を元にした価格で、秋田市はメーカーに対して、できるだけ安くして下さいとお願いをしている。

ごみ袋は、秋田市が形と規格を決めて承認しているだけで、有料化ではなく、すでに有料化されていると誤解されている市民の方々には、懇切丁寧に説明していくしかないのではないかと考えている。

もし有料化するとなれば、指定ごみ袋の価格を1リットル1円だとすると1枚45円程度に変わるので、皆さんもお気づきになると思う。

会長

それでは次の方お願いしたい。

委員

今も1リットル1円くらいだと1枚45円だというお話があったが、1リットルあたりのごみは何キロで換算されているのか教えていただきたい。先ほど、負担感が大きいとか小さいとか漠然とした意見があったが、1リットルあたり1円というのは何を根拠に算定されたのか。

私は、ごみの処理経費に対して負担を求めるのは賛成だが、例えば、ごみが45リットル出されたときにどれぐらいの負担を求めるのかという根拠が必要だと思う。この49億円の中で排出者が負担すべき経費と、行政サービスとして負担すべき経費をきちんと分けて、排出者が負担すべき金額はこれくらいであるという話をしてからでなければ、理解してもらえないと思う。

排出者の負担の根拠をしっかりと示してもらえれば、それが40円であれ80円であれ、私は受益者負担分として納得してもらえるのではないかと思う。

また、立派な溶融炉ができたために、今までは分別していたものが家庭ごみとして出せるようになり、出す方とすれば非常に楽になったが、その中に資源化できるものがないかを再検討できないものかうかがいたい。

ごみを減らすためには、やはり啓蒙やPRの方法を少し工夫するほうが良いのではないかと思う。他の委員の方も言っていたが、1日一人50グラムを減らすことはそんなに大変なことではないと思う。それを減らすことにより、自分の出しているごみの量がこれくらい減るとか、お金の換算するとこれぐらい節約になるというような、市民に対し金銭感覚的に訴えるようなPR方法なども効果的だと思う。

会長

今の内容には、次回に検討してもらいたいものもあるので、今日お答えできる所だけで良いので事務局からお願いします。

事務局

先ほどの袋の重さだが、45リットル袋だと平均で約4.4キログラムである。これは今年も組成調査を実施しているので、もう少し精度の高い数値が出てくるものと考えている。何トンといってもわかりにくいので、何袋というような形で示すことも必要であると考えている。

負担の問題については、ごみ処理経費49億円のうち約31億円が処理にかかる経費であり、有料化について検討するにあたっては、まず市が税金でやるべきところと、皆さんに負担してもらうべきところを分けて示すべきであると考えている。例えば、処理の部分の何割を負担していただくというように、明確にお示しすることも必要であり、使い道も含めて計算の根拠など、はっきりしていきたいと考えている。

また、溶融炉の稼働により分別区分が減ったが、さらに資源化を図ることについては、これからの検討課題と考えている。

啓蒙やPRなどをさらに強く進めるべきではないかという話については、誰

にでもわかりやすいようなPRをさらに進めるとともに、市の広報誌以外の方法でも行う必要があると考えている。

会長 それでは、最後の方お願いしたい。

委員 私は、ごみの有料化に大変賛成である。行政のみなさんが有料化について市民に説明する場合は、町内会を通じて班長さんに説明していただくことが最良の方法だと思う。有料化の料金も町内会費に加算して徴収してもらう方法が最良だと思う。

会長 提案については、次回に検討させていただく。これに対して事務局から何かあるか。

事務局 これからの議論になると思うが、そういう方向も含めて検討させていただきたいと思う。

会長 以上、委員の皆さんが一巡した。今日は皆さんから意見や質問をいただいたが、次回は有料化の是非、有料化に向けた課題などについて、審議をしたい。次回の審議会までに、意見や質問などがあれば、事務局へ問い合わせしてほしいか。

事務局 本件に関する質問等に関しては、環境部のごみ減量推進課へ直接お問い合わせ願いたい。

会長 皆さんのわからないこと、あるいは情報等が欲しい場合は、積極的に事務局へお問い合わせいただきたい。それでは事務局へお返りする。

事務局 (事務連絡) 次回開催についてのお知らせ。
最後に環境部長よりあいさつ申し上げる。

環境部長 秋田市では、現在のごみ処理施設を整備し、3炉体制から2炉体制にする事業を進めている。これはごみ減量が具体的に表れたものであり、ご協力いただいている市民や事業者の皆様はこの場を借りて改めてお礼申し上げたい。

今回の審議会は、ごみの減量をさらにもう一段進めたいということが大きなテーマになっている。将来、秋田市の次の世代にどういう形でしくみを残していくか、長期的な視点で議論していただければと思っている。

また、平成14年度からごみの分別区分変更を行うため実施した、地域ごとの説明会では、説明の仕方が不十分であったということも反省すべき点と感じている。説明してもし尽くせないこともあると思うが、わかりづらいことは、よりわかりやすい説明を心がけていきたい。また、審議会の進め方についても、

会議の開催時のみならず、いつでも、遠慮なく事務局にお話していただければ対応するので、よろしくお願ひしたい。

事務局

以上をもって平成21年度第1回秋田市廃棄物減量等推進審議会を閉会する。
(閉会宣言)